

## 大将陣公園横に計画されている産業廃棄物処理施設について

問：近隣市では、どのような産廃問題があったのか。

答（町長）：飯塚市の内住地区で、産業廃棄物が埋め立てられ汚水が流れ出し、流域の健康被害につながるのではないかという懸念から、県も一緒になって廃棄物を取り除いた。

嘉麻市では、ごみを規定以上に積み重ね、そこに火が入り、消し止めるまでに時間がかかった。汚水が近隣の川に流れ出し、流域全体の健康被害につながった。

「対岸の火事」ではなく、このような事案に学びながら取り組んでいく必要がある。

問：飯塚市の6月議会で、片嶺市長は次のように回答された。

「当該地は、桂川町にとってスポーツ施設に隣接している所。本市にとっても公園のすぐそばであり、グラウンドゴルフ場を計画している所。

そういう場所なので、民間のすることとは言え、非常にゆゆしいものだ」。

片峰市長は産廃施設ができることを、「非常にゆゆしい」と言われている。井上町長の考えは。

答（町長）：片峰市長と同じ。

問：産廃施設の予定地は、桂川町・飯塚市にとって、健康づくりの拠点であり、文化的活動の拠点。そこを大型車が通り、産廃処理が行われる。

片嶺市長は、

「当該地は桂川町。しかし、隣接地である本市も、意見を述べる責任と権利がある。桂川町と情報共有を図り、特に計画立ての段階で後手に回らないように今後しっかりと対応したい」

と言われた。

現在、情報共有を行っているのか。

答（保健環境課長）：行っているし、今後も行っていく。

問：片嶺市長は「計画立ての段階で後手に回らないように対応したい」と言われているが、町長の考えは。

答（町長）：同じ考え。私たちが知らないうちに、計画だけが先行するということがありえると警戒している。

意：議会・行政・町民が一緒に知恵を出し、情報交換して取り組んで行かなければならない。一緒にやっていきましょう。